北海道白糠高等学校

白糠高等学校魅力化プロジェクト

- 白糠高校生徒専用の公営塾「久遠塾」の設置
- タブレット端末等のＩＣＴ機器の整備
- 基礎的、基本的な学力の定着を図る映像教材の提供
- 資格取得をサポートする検定料等の助成
- 大学等への進学を支える給付型奨学金の支援
- 学校給食の無料提供など

町内唯一の高校存続をかけて
白糠高等学校魅力化プロジェクト

白糠高等学校魅力化プロジェクトは、町内唯一の高校である「白糠高等学校（以下、白糠高校）」の存続に向けた取り組みで、２０１６年度（平成28年度）にスタートしました。

白糠高校の生徒数は、平成元年度の７６７人をピークに減少の一途をたどり、平成26年度からは学年２間口になるなど、このまま生徒数の減少が続けば、同校は存続の危機に立たされる可能性がありました。

町に高校がなくなれば、町内の子どもたちは中学卒業後に町外の高校へ通わねばならず、通学費などで保護者の経済的負担となるほか、町から高校生の姿がなくなれば、活気や賑わいがなくなり、地域の衰退を招く恐れがあります。

こうした危機感のもと、町では「白糠高等学校魅力化プロジェクト（以下、魅力化プロジェクト）」を立ち上げ、同校へのさまざまな支援策を講じてきました。

魅力化プロジェクトが始動して5年、この間の成果と課題、そして今後の取り組みなどについて、田村信明校長と同校で地域・教育コーディネーターを務めている上内智英さんにお話しを聞きました。

――魅力化プロジェクトにより何が変わったのでしょうか。

田村校長　資格を取得するため、というように目的意識を持って入学してくる生徒が増えました。魅力化プロジェクトの取り組みが根付いてきた証拠だと思います。

上内さん　今年度は推薦入学者が３人いました。

６月29日、白糠高校の２年生が沐浴体験授業を行いました。石井寿鶴さんは「体を返すところが難しい」と話していました。

６月25日、白糠高校と白糠中学校とが合同でグラウンドの石拾いを行いました。中学校と高校による連携事業の一つです。

６月17日、白糠高校と白糠中学校の初めての合同避難訓練が行われ、生徒たちは避難場所である「九合の山」まで走りました。

６月29日、白糠高校の生徒会と生活環境委員会が地域ボランティアの協力を得ながら正門前の花壇整備を行いました。

６月28日、白糠高校の生徒会が交通安全標語入りのポケットティシュを作成し、役場１階町民サービス課窓口に設置しました。

６月22日、白糠高校１年生22人が和天別川河口付近に漂着したごみを拾い調査し、環境問題について理解を深めました。

田村校長　「普通科」の推薦入学者は、平成28年度以来５年ぶりになります。目的のある生徒たちは、授業態度も良く、集中して取り組んでいます。

――課題は見えてきましたか。

田村校長　魅力化プロジェクトの一環として始めた公営塾「久遠塾（以下、塾）」を活用しきれていなかったというのがあると思います。

上内さん　塾の利用者は確実に増えていますが、大学を目指すためだったり、公務員を含めた就職を目指すためだったりと、目的を持って塾に通っている生徒が少ない印象です。何となく塾へ行ってみようという感じですね。ですが今年度、塾が高校の校舎内に移設されたので、このことが課題解決へつながる一歩だと思っています。生徒たちが高い意識を持って、継続的に塾へ通うようになってくると、おのずと結果が出てくると思いますので、もう少し見守っていただければと思います。

白糠高校の田村信明校長

地域・教育コーディネーターの上内智英さん

――塾が校舎内に設置されたことで、どのようなことが期待されますか。

田村校長　生徒の身近に塾があるので、利用者が増えるということですね。まずは塾に来てもらい、塾でやっている取り組みを知ってもらうということが大切だと思います。もう一つは、学校の先生と